

◇ 7月の天文暦 ◇

日 時	記 事
2 12	半夏生 (太陽黄経 100°)
6 5	上弦
7 17	小暮 (太陽黄経 105°)
14 2	望
15 2	月 最遠
20 7	土用 (太陽黄経 117°)
22 3	下弦
23 11	大暑 (太陽黄経 120°)
25 23	木星 月の 1° 南を通る
27 ~	8月1日まで 水瓶座δ流星群
28 18	月 最近
28 21	朔

惑星とギリシャ神話—その2

ギリシャ神話による天地創造の話を始めよう。

まずはじめに大きく口をひらいた空虚といわれる“渾沌”が生じ、それから豊かな胸をもった母なる“大地”が生まれた。これとともに大地の下に陰気な“冥府”ができ、大地と冥府を結び合わせる役の愛の女神“エロス”が生まれた。こうして万物の誕生が次々と始まった。渾沌はさらに“闇(エレボス)”と“夜”を生み、夜からは空の最高の輝きである“アイテル”が生じた。また闇と夜が愛でむすばれた結果“昼(ヘメラ)”が生まれた。大地は自分と似た“空(ウラノス)”を作り出し、ウラノスと一体になって“大洋(オケアノス)”と

男女の“巨人族(タイタン)”を生んだが、タイタンはどれもこれも恐ろしい姿をした怪物ぞろいであった。

父なるウラノスはこの子供たちをにくみ、乱暴な仕打ちをしては楽しんでいたが、母なる大地は胸の奥底で嘆息し、その苦しみにたえかねてとうとう一つの悪だくみを考えついた。大地は自分の内部から灰色の鉄を生み出し、これから鎌の形をした強大な剣を作りあげ、息子たちに恨みをはらそうと呼びかけた。恐ろしさにしりごみするタイタンの中で一人これに応じたのが、最も若い息子で心のねじけた恐ろしい男“クロノス”であった。大地は喜びいろいろな策略を授けてウラノスを待ち伏せさせた。ウラノスが夜をともなって現われ、愛の欲求にあふれて大地の上に身を傾けたとき、クロノスはかくれ場所から左手をあげ、右手に例の剣をつかんで父の男根をすばやく切りおとし背後になげた。そのしたたり落ちる血のしずくを大地がうけて復讐の女神たち“エリニス”が生まれた。ウラノスの男根は海に落ちて漂い、そこからわきあがった白い泡から美の女神“アフロディテ”が生まれた。

クロノスはこの父に対する暴力的所業の罰として、自分の息子“ゼウス”によって天上からおとされる身となった。ゼウスは息子たちと協力して地下の怪物やタイタンを征服し、オリンポスの神々の国を建設して天地を支配する地位についたのである。こうして血なまぐさい天地創造の話は終わり、あとはゼウスが人間の女性との間にもうけた半神である英雄たちの物語がつづくわけだが、これはまたの機会にゆずることにしよう。(⊕)

東京における日出入および南中 (中央標準時)

Ⅶ月	夜明	日出	方位	南中	高度	日入	日暮
日	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分
1	3 50	4 28	+29°7'	11 45	77°6'	19 1	19 39
11	3 55	4 34	+28.5	11 46	76.6	18 59	19 37
21	4 3	4 40	+26.5	11 47	75.1	18 54	19 31
31	4 11	4 48	+23.8	11 47	73.0	18 47	19 23

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出, 右側は日入に対する値)

分	分	分	分
鹿児島 +47	+27	鳥 取 +23	+21
福 岡 +43	+32	大 阪 +20	+15
広 島 +33	+26	名古屋 +13	+10
高 知 +30	+19	新 潟 - 2	+ 9
		根 室 -46	- 1
		仙 台 -12	+ 3
		青 森 -18	+11
		札 幌 -28	+15

◇ 7月の日月惑星運行図

